

鹿児島県管内全図

REI MEI

vol.44

No.1

Kagoshima Prefectural Museum of Culture Reimeikan

鹿児島県歴史・美術センター黎明館より「黎明」

特集

企画展

鹿児島県誕生

Contents

特集
企画展

鹿児島県誕生

黎明LED化完成企画

新しい光で輝くモノたち

研究ノート

企画展「鮫島白鶴の人と書と」を終えて

館長あいさつ

学芸員EYES! 第17回

アカトリ

黎明館のフカボリ②

敷地散策のススメ 御池

イベントスケジュール

鹿児島県誕生

令和8年

6月11日(木) — 8月31日(月)

黎明館3階 企画展示室

明治4(1871)年7月の廃藩置県から約20年間に、鹿児島県令となった大山綱良、岩村通俊、渡辺千秋らの事績に焦点を当てます。この時期の鹿児島県は、地方行政の制度の確立や西南戦争からの復興という重要な時期でした。彼らの県令としての視点から、明治時代前期の鹿児島の変化を捉え、関連する人物も交えて、鹿児島県が形成されるまでの過程について紹介します。

関連イベント

申込詳細は、ホームページまたはチラシをご覧ください。

学芸講座(展示解説講座)「鹿児島県誕生」

| 講師 | 黎明館学芸専門員 坂口 洋幸

| 日時 | 令和8年6月21日(日) 13:30 ~ 15:00

| 会場 | 黎明館3階 講座室

| 申込 | 事前申込制(電子申請または往復ハガキ)
応募期間: 5月22日(金) ~ 6月5日(金)

※ 講座後に、企画展示室で展示解説を行います(要団体入館料)

展示解説

| 日時 | 令和8年7月11日(土) 13:30 ~ 14:10

7月25日(土) 13:30 ~ 14:10

8月23日(日) 13:30 ~ 14:10

| 会場 | 黎明館3階 企画展示室 (要入館料、事前申込不要)

鹿児島県管内界図
『鹿児島県治式覧概表(鹿児島県蔵版)』
明治12(1879)年

第1章

薩摩藩から鹿児島県へ

県の範囲は数年ごとに変化していました

今日の鹿児島県は、県本土と種子島・屋久島、トカラ列島、奄美群島などの島嶼部をふくんだ南北600kmにわたります。しかし現在の県域は、廃藩置県の直後から一定していたわけではなく、県の統合や改置が短期間に繰り返され、その範囲も変化しました。



明治十年丁丑 鹿児島略絵図
明治10(1877)年

第2章

県令たちはどんな仕事をしていたのでしょうか

県令たちは、現在の県政につながる制度や行政のしくみを整えていきました。西南戦争による混乱を乗り越え、復興へと導きながら、行政のしくみをつくり、県会が開かれるようになりました。

県のしくみづくり



鹿児島県庁写真(明治12年建築)
『鹿児島県写真帖』
(玉里島津家資料)明治40(1907)年



興業館写真『鹿児島県写真帖』
(玉里島津家資料)明治40(1907)年



『鹿児島県会日誌』
明治13(1880)年

初代県令
大山綱良
Oyama Tsunayoshi



2代県令
岩村通俊
Iwamura Michitoshi



3代県令
渡辺千秋
Watanabe Chikaki

1円券(水兵札)



5円券(鍛冶屋札)



第百四十七国立銀行
国立銀行紙幣(新券)
明治11(1878)年
個人蔵

第3章

いまにつながる産業や教育を紹介します

産業政策と人材の育成

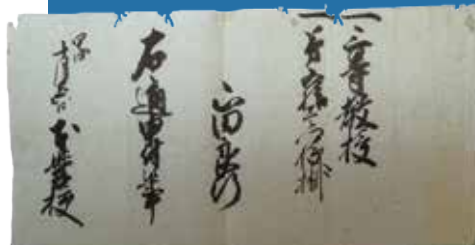
県の政策によって、農業や養蚕・製糸業の商工業が振興し、明治16(1883)年に開催された「(第2回)九州沖縄八県連合共進会」に合わせ、鹿児島県立興業館が建設され、地方における博覧会文化の先駆けになりました。また、磯の西洋館を仮教場に開校した「公立鹿児島学校」をはじめとし、各地に学校が整備され、人材育成の仕組みが整えられました。



白野夏雲著『かごしま案内(全)』
明治15(1882)年 個人蔵



赤倉病院建立の煉瓦



本学校辞令 明治6(1873)年 個人蔵



明治十五年異人館写真 明治15(1882)年

新しい光で 輝くモノたち

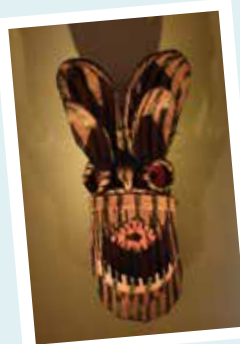
このたび黎明館では、特別展示室の照明をLEDにリニューアルしました。LED照明の導入により、文化財にやさしく、作品の魅力を引き出せる新たな展示環境が整いました。その効果を県民の皆様に体感していただけるよう、企画展を開催しました（令和8年4月1日～29日、第2特別展示室）。

新たな照明は、明るさや色合いを作品や空間に応じて調整できる点が特長で、省エネルギー化も実現しています。

企画展は「照明」をテーマに、当館が収蔵する油彩画や日本画、彫刻、仏像、刀剣、甲冑、薩摩焼、漆器、染織品などさまざまな材質と形のコレクションを展示しました。灯工舎 藤原工氏、株式会社YAMAGIWAの協力のもと、新しく導入したLEDの照明システムを生かし、最新の光で当館が収蔵するコレクションを照らしました。



藤原氏のレクチャーを受け、照明技術について学びました。



／照明を受けて輝く資料＼



照明
ビフォー
アフター



照明のテクニック

3300Kのやや黄色味のある色温度で、5点の作品に対して合計12灯のスポットライトで丹念に光を重ねていった。中央の一番大きな壺は4灯を駆使している。狭角のスポットライトで作品の下部分に光の中心をもってくると床面も照らされ、その反射が作品に跳ね返り、さらに輝きを増した。完成すると、照明による影がほとんど目立たず、作品が浮かび上がるような光に包まれた。

照明のテクニック

照明は真っ暗からスタート。まず刀剣になじむ4000Kのクールでシャープな白色の光を真上から刀剣の前面に向かって下ろし、やや抑えた明るさでベース照明をつくった。さらに3mほど離れた天井からカッター付の狭角スポットライトで、刀身の形に絞り込んだ強い光を加え、刀身や地金、波紋、銘をくっきりと浮かび上がらせた。今回は会場全体の照度をほの暗く設定していることもあり、堂々とした国宗の姿がさらに際立った。

企画展「鮫島白鶴の人と書と」を終えて

学芸課長 切原 勇人

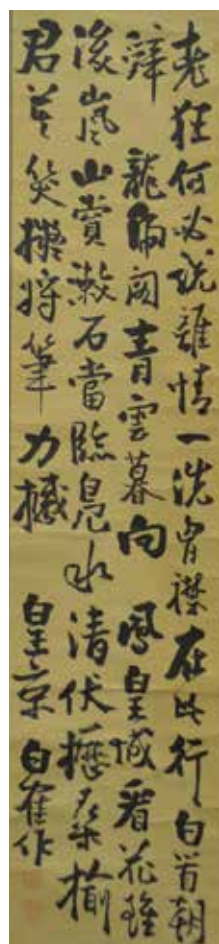
白髪に丸顔、酒をこよなく愛した書家、鮫島白鶴（1773～1859）。気さくでおおらかな人柄で、書の謝礼に酒を差し出されると喜んで筆を執ったといひます。そのため白鶴の書は多くの人に親しまれ、行く先々で人々が集まり、書を求めたという話も伝わっています。

今回の企画展をとおして、あらためて感じられたのは、白鶴の「詩」のおもしろさでした。

たとえば「鳳皇城」は、京都から平等院へ向かう旅を思いえがいた作品です。実際に旅をしたわけではなく、想像の中で景色を楽しみながら心をのびやかにしていく様子が、いきいきと表現されています。年を重ねてもなお前に進もうとする気持ちや、「思うままに書いた」という率直な言葉には、白鶴らしい自由さと温かさが感じられます。

白鶴の詩は、まるで一緒に旅をしているかのように景色が広がり、読む人の心まで軽やかにしてくれます。書だけでなく、詩にもぜひ目を向けていただければと思います。

四行書「鳳皇城」
老狂何必說離情 一洗青襟在此行
白雀朝辭龍席闕 青雲暮向鳳皇城
看花魂溪嵐山賞 漱石當臨鳧水清
伏檻桑榆君莫笑 擬狩筆力機皇京
白雀作

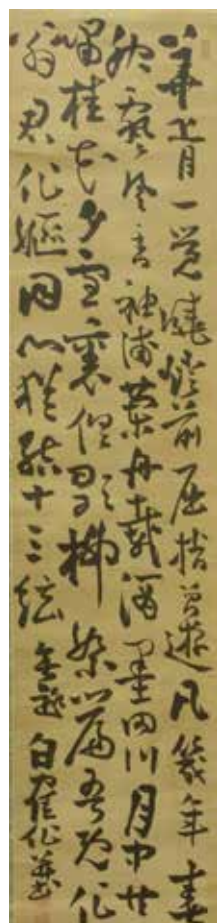


また、鮫島白鶴の詩のおもしろさは、「無題（華胥一覺）」にもよく表れています。

この作品では、夢からさめた夜に、若い頃の思い出をふり返る様子が描かれています。春の夜に川辺で遊んだことや、舟に乗って酒を楽しんだこと、月や雪を眺めながら詩を詠み交わしたことなど、いきいきとした情景が広がります。

やがて時が流れ、「私は老人に、あなたも老女になった」と語りながらも、「心は今も変わらない」と結ばれます。その言葉からは、長い年月をこえて続く温かな絆が感じられます。

白鶴の詩は、思い出や人とのつながりをやさしく描き出し、読む人の心に静かに寄り添います。



四行書「無題（華胥一覺）」
華胥一覺曉燈前 屈指曾遊凡幾年
春夜飄風香袖浦 蘭舟載酒墨田川
月中共嘯桂花夕 雪裏俱歌柳絮篇
吾既作翁君作姬 同心猶結十三絃
無題 白雀作并書

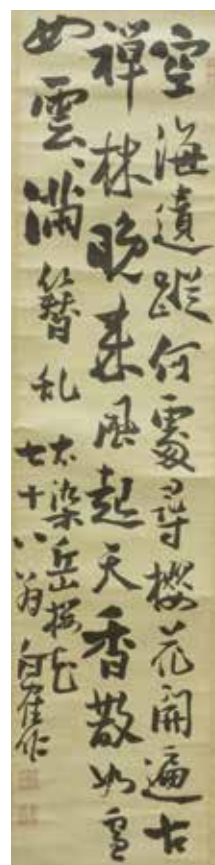
さらに、鮫島白鶴の詩には、自然の美しさをいきいきと描いたものもあります。

三行書「染岳桜花」は、熊本・天草の禅寺を訪れたときの春の情景を詠んだ作品です。満開の桜のもと、夕方の風に吹かれて花びらが舞い、雪や雲のように降り積もる様子がやさしく表現されています。空海の足跡をたどろうとする思いとともに、目の前に広がる景色の美しさが重なり、静かで心に残る場面と

なっています。七十八歳の作でありながら、そのまなざしはみずみずしく、自然への感動が素直に伝わってきます。

こうして見ていくと、鮫島白鶴の作品は、書の力強さだけでなく、詩にこめられた思いや情景も大きな魅力となっていることに気づかされます。書のかたちを味わうだけでなく、そこに書かれた言葉や、その背景にある景色や気持ちにも目を向けてみると、白鶴の世界がより身近に感じられるかもしれません。

三行書「染岳桜花」
空海遺蹤何處尋 櫻花開遍古禪林
晚來風起天香散 如雪如雲滿簪亂
七十八翁 白雀作





館長あいさつ

館長 谷口 浩一

昨年12月、韓国釜山にある国立海洋博物館の国際企画展に参加しました。タイトルは「貝：貝殻に宿る韓国と日本の痕跡」。黒潮文化という共通項を基に、海を媒介とした日韓両国の文化的関連性を照らすというもので、日本から参加のあった数館のうち、私共黎明館は本県広田遺跡(種子島)関連の収蔵品を貸与しました。

国立海洋博物館は、施設もさることながら、展示の設え、演出に加え、館長以下スタッフのクオリティも高く、また大変フレンドリーで素晴らしいイベントとなりました。因みに、この国際企画展の来場者数は、開催期間3ヶ月で延べ12万人と桁違いでした。

今回痛感したことは、韓国という国の文化への投資の厚さです。海洋博物館にしても、水族館があり、キッズスペースがあり、1日中家族で楽しめる。国民が文化に親しむ土壌がしっかり確立されており、文化は日常により近いものとなっています。自分たちの足元を常に見つめ、国民や地

域住民のアイデンティティや一体感を形成する環境があります。

「日常」と「非日常」。観光は後者の代表。県外のみならず国外からの観光客の増加で、この「非日常」を楽しむ文化は今日のトレンドであり、大事にしなければなりません。

ただ一方で、この地域内にあって文化との触れ合いを「日常」化していくという側面についても、もっと力を注ぐ必要があります。「非日常」を楽しむ県外の人の方が鹿児島県の歴史・文化をよく知っているという逆説もまたあり得ることです。地元の方々、特に子供達との距離を縮めて、その「日常」において地元の歴史・文化に親しみ、保存・伝承に繋げて行くことが持続可能性を高めます。今回の韓国釜山行は、そのことを改めて認識したよい機会となりました。

当館では、常設展示に加え、時宜を捉えたテーマを設定し、18万点を超える収蔵資料や外部からの優品の中からそれに沿った素材を厳選して、鹿児島県の歴史・文化の一端を臨場感をもって体感していただけるよう日々努力しております。

これからも、時代の求める多様なニーズを敏感に捉えつつ、独自性溢れる鹿児島県の歴史の普遍的な価値を後世に受け継いでいく唯一無二の役割をしっかりと自覚しながら、様々な人々に強く訴求する歴史と美術の発信、展示に取り組んでまいります。そして鹿児島県におけるよきフォーラムの場であり続けたいと思います。

どうぞ、県内外の皆様にご来館いただき、それぞれの楽しみ方を見つけていただければ幸いです。心よりお待ちしております。

令和8年度の転出・転入者

転出者		
職名	氏名	転出先・職名
副館長兼総務課長	三反田 みどり	(退職)

転入者		
職名	氏名	元所属・職名
副館長兼総務課長	内山 功一	かごしま県民交流センター副館長

[館内]

旧職名	氏名	新職名
総務課主査	竹之内 正和	総務課専門員
学芸課学芸調査係主査	古殿 志賀子	学芸課学芸調査係学芸専門員
学芸課学芸調査係主査	吉峯 真太郎	学芸課学芸調査係学芸専門員
学芸課企画資料係主査	竹添 和寿	学芸課企画資料係学芸専門員

令和8年度黎明館主催展覧会スケジュール

4	5	6	7	8	9	10	11	12	令和9年 1	2	3	4
令和7年度企画展④		令和8年度企画展①			令和8年度企画展②			令和8年度企画展③		令和8年度企画展④		
歴史 中世武士の戦いと生活 3月12日(※)-5月31日(日)		歴史 鹿児島県誕生 6月11日(※)-8月31日(日)			美術・工芸 没後120年 十二代沈壽官と苗代川 9月10日(※)-11月29日(日)			美術・工芸 さつまの刀 —900年の匠のしごと— 12月10日(※)-2月28日(日)		歴史 西南戦争を超えて —近代国家建設に尽力した黒田清隆の生涯—(仮) 3月11日(※)-5月30日(日)		
												
鹿児島県管内界図『鹿児島県治式覧概表(鹿児島県蔵版)』明治12(1879)年		十二代沈壽官作 錦手牡丹花瓶			刀 銘(一ツ葉美紋)主水正藤原正清			明治22年2月11日憲法発布式之図		馬鍬		
照明LED化完成企画 総合 新しい光で輝くモノたち 4月1日(※)-4月29日(※)		令和8年度企画特別展 民俗 かごしま いきものがたり 9月29日(※)-11月3日(※)								垂水人形 座犬		

船底の形に合わせて…

アカトリは船の上で使われた民具で、「アカ」には「水」や「浸す」という意味があります。船は水上を航行する以上、川や海の水が船内に入りこむのを完全に防ぐことはできません。現在は電動ポンプで水を排出することができますが、エンジンのない船はどうやって排出していたのでしょうか…そうです。このアカトリを使って、人力で水を汲み出していました。

左に掲載している、2点のアカトリをよく比べて見ると、川船用は裏面が平らで、海船用は裏面が丸く湾曲しています。この違いは、船底の構造の違いからきています。川船は、水深の浅い場所を進むため、船底が平らに作られています。一方、海で使う船には一本の木をくり抜いて作る割り船が多く見られます。丸太の形を生かし、波を受け流しやすい丸い船底となっています。

そのため、水を汲み出す作業がしやすいよう、船底の形に合わせてアカトリも形を変えて作られました。名前も使い方も同じ2点ですが、それぞれが使用される環境や人々が道具を使うなかで工夫され、この形態にたどりついたのです。

黎明館常設展示民俗の展示場には、このアカトリのように、名前が同じ、あるいは形がよく似た民具がたくさん並んでいます。ちょっと立ち止まって、「どこか違いはないかな?」とまちがいさがしのように民具を比べて見るのもオススメです。この違いの中に、人々が培ってきた知恵や工夫が込められているのです。

最後にこんな小話もいかがですか。アカトリは水を汲み出すだけでなく、漁の合間で食事をする際の、皿やドンブリ、裏面はまな板として使われた、とも言われています。小さな船の上、持ち込むものを最小限に、代用できるものは何でも代用する、そんな工夫も垣間見ることができます。

学芸専門員 古殿 志賀子（民俗担当）



アカトリ（川船用）



アカトリ（海船用）

黎明館のフカボリ 20

敷地散策のススメ

御池（おいけ）

御池は鹿児島城本丸の東南隅にあった池です。

昭和2（1927）年、第七高等学校造士館のプール建設のため、鹿児島城の御庭の一部が壊され、庭石の一部は公会堂（現在の中央公民館）に、大部分は鹿児島市鴨池動物園の庭園に移設されました。その後、鴨池動物園の移転に伴い、昭和46（1971）年12月に当時明治百年記念事業として建設計画のあった黎明館に鹿児島市から譲渡され、昭和58（1983）年3月に現在の御池が完成しました。規模や庭石の数は違いますが、九臈橋（きゅうこうばし）など江戸時代の庭石がそのまま使われています。



黎明館 NEWS

年間パスポート購入特典 新サービス開始



黎明館のレストランと喫茶室で食事やお買い物をされた際に、年間パスポートの提示で、お買い上げ金額から5%割引になるサービスが令和8年4月1日（水）から始まりました。（一部対象外あり）ぜひ、ご利用ください。

編集 後記

LED化した特別展示室では調光の操作も容易になりました。どんな資料でも光の色や角度の違いで多様な表情をみせてくれます。光を用いてどのような空間を演出できるだろうか、資料が保護できる明るさだろうか、試行錯誤をしながら展示会を作り上げていきます。今後の展示にご期待ください。（田平）

編集・デザイン 田平晶子 中村友美

会期：令和8年9月29日(火)～ 11月3日(火)

会場：黎明館2階 第2特別展示室

鹿児島の人々は、海や山に囲まれた風土のなかで、さまざまないきものとともに暮らしてきました。いきものは、食や仕事を支える存在であり、ときに畏れの対象となり、あるいは祭や伝承のなかでは、神と人をつなぐ役割も担ってきました。

暮らしのなかで使われた民具や、祭・信仰の道具を中心に、人といきものとの関わりをたどり、これからの人といきものの向き合い方を見つめます。

カギヒキ祭りの牛
中津神社、鹿屋市

会期：令和8年9月10日(木)～ 11月29日(日)

会場：黎明館3階 企画展示室

薩摩焼を創始した朝鮮陶工の末裔であり、明治時代に海外輸出を牽引した十二代沈壽官(1835-1906)の没後120年を記念して、その事績を作品と史料から振り返ります。また、沈壽官窯が所在する苗代川(現日置市東市来町美山)は、薩摩藩が朝鮮風俗を保持した薩摩焼産地として保護と統制を行った特殊な地域です。その役割の重要性や当時の姿についても併せて紹介します。

十二代沈壽官作
錦手牡丹文花瓶

事前申込制です。申込詳細は、チラシまたはホームページ・SNSでご確認ください。

学芸講座(5月～7月)

日 時	テーマ	講 師	申込期間
学芸講座			
5/9(土) 13:30～15:00	室町時代の南九州3 -立久・忠昌の時代-	学芸専門員(歴史) 吉村 晃一	申込終了
6/21(日) 13:30～15:00	(展示解説講座)鹿児島県誕生	学芸専門員(歴史) 坂口 洋幸	5/22(金)～6/5(金)
7/11(土) 13:30～15:00	寺師見國の研究ノート(仮)	学芸専門員(先史・古代) 竹添 和寿	6/12(金)～6/26(金)

展示室貸会場イベントスケジュール(5月～7月)

黎明館開館時間(9:00～18:00)

期 間	時 間	イ ベ ント	会 場	観 覧 料	主 催 者 お 問 い 合 わ せ 先 (敬 称 略)	備 考
4/26(日)～5/5(火)	9:00～18:00 (入場は17:30まで)	第15回 鹿児島白日会展	第1	有料	白日会南九州支部 池川	090(1873)4553 初日9:30開場 最終日16:00閉場
5/1(金)～5/4(月)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	鹿児島モデラーズコンベンション2026	第3	無料	鹿児島モデラーズ コンベンション2026 実行委員会	090(1167)5434 初日9:00開場 最終日18:00閉場
5/4(月)～5/5(火)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	KAIEDAフレーバーズの歴史	第2	有料	海江田有限公司	0995(67)7716 初日9:00開場 最終日18:00閉場
5/16(土)～5/24(日)	9:00～18:00 (入場は17:30まで)	第72回 県美展	第1 第2 第3	有料	鹿児島県美術協会	099(223)0758 初日9:00開場 最終日16:00閉場
5/27(水)～5/31(日)	9:00～18:00 (入場は17:30まで)	日展鹿児島会展2026	第1 第2	有料	日展鹿児島会	090(2713)3957 初日9:00開場 最終日15:30閉場
6/9(火)～6/14(日)	9:00～18:00 (入場は17:30まで)	第75回 南日本書道展	第1 第2 第3	有料	南日本新聞社事業部	099(813)5052 初日9:00開場 最終日14:00閉場
6/17(水)～6/21(日)	9:00～18:00 (入場は17:30まで)	第10回 全九州高等学校総合文化祭 鹿児島大会	第1 第2 第3	無料	鹿児島高等学校文化連盟	099(278)3986 初日9:00開場 最終日14:00閉場
6/26(金)～6/28(日)	9:00～18:00 (入場は17:30まで)	第64回 南日本七夕書道展	第2 第3	無料	南日本書道会	099(223)5226 初日9:00開場 最終日18:00閉場
7/3(金)～7/5(日)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	第53回 鹿児島県学生書道連盟展	第3	無料	鹿児島県学生書道連盟	080(2752)4931 初日9:00開場 最終日16:00閉場
7/3(金)～8/31(月)	9:00～18:00 (入場は17:30まで)	動き出す妖怪展KAGOSHIMA	第1	有料	MBC南日本放送事業部	099(254)7112 初日10:00開場 最終日18:00閉場
7/11(土)～8/23(日)	9:00～18:00 (入場は17:30まで)	南日本新聞社創立145年記念 大恐竜展2026	第2 第3	有料	南日本新聞社事業部	099(813)5052 初日9:30開場 最終日18:00閉場

Information

開館時間 9:00～18:00(入館は17:30まで)

休 館 日 月曜日(祝日の場合は翌平日)、毎月25日(土・日・祝日の場合は開館)、12月31日～1月2日、そのほか館が定める日

観 覧 料 一般 430円 高・大学生 270円 小・中学生 160円(令和8年度まで)

(年間パスポート) 一般 860円 高・大学生 540円 小・中学生 320円(令和8年度まで)

※ 観覧料が無料または割引になる場合があります。詳しくはホームページでご確認ください。

SNS

展示や催し物等の最新情報は
SNS(Facebook・X・Instagram)にてご確認ください。

@official_reimei



@official_reimei



@reimeikan



Homepage